

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ドリフト	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.540	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ドリフト

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：ダーク・マター

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

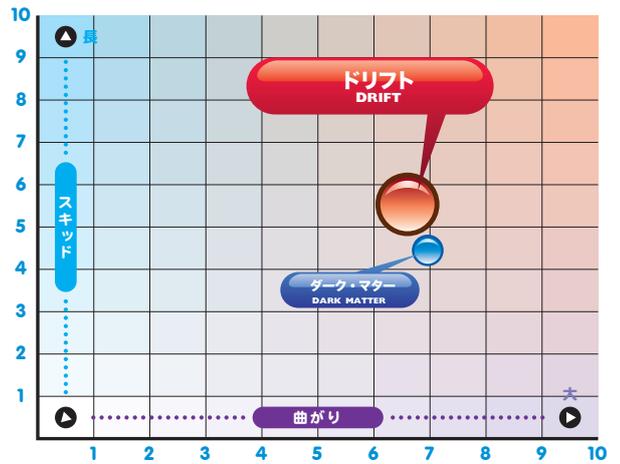
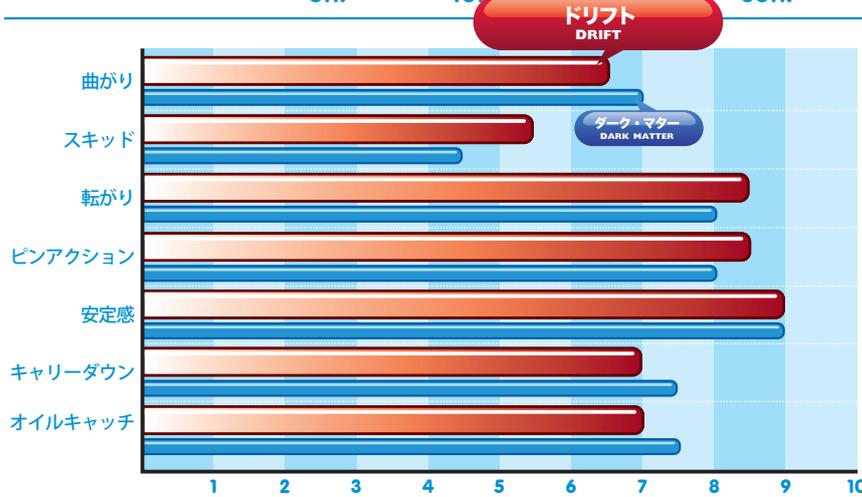
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

今年の3月中旬、900Global社からTour Engineered SeriesでDARK MATTER、CHEMICAL Xが発売されました。このSeriesは特にトーナメントで活躍するために吟味され、精査されたボールが集められた領域で、このDRIFTも今回The 2016 International Training and Research Center Super Senior Classicで優勝した矢島純一プロも実際会場で投球し、大絶賛という報告を受け、Testerの岡部プロも非常に高い評価をしています。

S62™ Hybrid Coverstock、Hula™ Symmetric coreでまた新しい領域のボールになっていますので紹介致します。まず同じ領域のCover Stockで比較すると、CHEMICAL XのS55 Solid、DARK MATTERはS60 Solidで、DARK MATTERより上位のCover StockのHybridと読み取ることができます。テストングの感想はRG:2.54、△RG:0.054のCore Spec以上に手前からの転がりの良さが印象的です。「軽やかに転がり、しなやかに曲がる」特性で矢島プロや岡部プロのような全く違うタイプのポウラーにも好印象を与えられるボールというのが、900Global社で目指したTour Seriesの根源であり、高いレベルでバランスが取れていないとこの評価にならないということも言えます。

私はこのボールの最大の武器はmediumからmedium dryコンディションでかなり高いレベルでコントロールできることだと思います。曲がり始めてからの軌道予測とピンにあたるその前に「これは飛ぶな」という確信のあるリアクションと実際の飛びの差が少ないこと。こう感じさせてくれるボールはどの領域のボールでも必ず逸品の中に入ることは、私の長いテスト経験の中で必ずと言って良いほどその結果は裏切りません。Mediumから下のコンディションで必ずレポートリーに入れる、またボールチョイスに必ずこのボールが思い浮かぶ。そんなボールがこのDRIFTです。

特記事項

Mediumから上のPerformanceが多く発売される中、その下の領域で勝負できるボールを手に入れること。それは特別なことではなく、必要であるからこそ持つだけです。